

# 新報

島根県教育庁  
隠岐教育事務所  
隠岐の島町岩部地区  
電話2-9772

## 地域の特性を生かした ふるさと教育の推進 〔海士町〕

海士町では、小学校四年生を対象とした二泊三日の通学合宿を行っています。通学合宿では『自立』（自分のことは自分で）・『挑戦』（めざせふるまい名人）・『交流』（つながりを深める）をねらいとして子供たちが様々なプログラムに取り組みます。今年度、特に力を入れて取り組んだことが『交流』です。そこで注目したのが、隠岐島前高校のレスリング部です。隠岐島前高校レスリング部は地域の行事に積極的に参加し、地域の方との学びを大切にしています。また、レスリングは、熱い思いを持った島前地区の多くの方に支えられ地域に根付いているスポーツです。これらを地域の貴重な教育資源ととらえ、顧問の先

生に相談したところ、今回の交流を快く受け入れていただき、実施することとなりました。



当日はレスリングの準備運動や基本的な動きを学んだ後、最後に試合を行いました。高校生も含めたチーム戦で、参加した子供たちは真剣に対戦していました。運動が苦手な子も一生懸命に取り組む姿が見られました。中には試合に負けて泣き出す子もいましたが、習ったことを意識して必死に攻めようとする姿に感動しました。また、顧問の先生の試合における安全を配慮した動きや礼儀、相手への大切にする姿勢、高校生の小学生にアドバイスする関わり

方が素晴らしかったです。小学生と高校生どちらにとってもよい交流になったのではないのでしょうか。今後も地域における体験活動の充実を図っていききたいと思います。

## スリー・ティキャンプ in 西ノ島 〔西ノ島町〕

西ノ島町では、七月三十日～八月一日にかけて、小学生四～六年生を対象に、二泊三日の教育キャンプを実施しました。

昨年度から始まったこのキャンプのキーワードは「自立」「協力」「たくましさ」です。今年度は、「協力」の土台となる「自立」を促すために、「プログラムの一つに『ソロ炊飯』を取り入れました。参加した子供一人ひとりが、一人用のコンロと土鍋を使い、自分で食べるご飯は自分で炊くというものです。活動中は、ナタでけがをする子供、マッチの使い方に悪戦苦闘する子供も多く、なか

なか自分一人で炊き上げるまではないと感じませんでした。結果として、上級生が下級生を助ける場面が多く見られました。ねらいにそぐわない行動について、スタッフ間で協議をした結果、「好ましい姿ではないか。」ということで、認めることになりました。



しかし、事前・事後のアンケート結果を比較分析したところ、「自立」「思いやり」に関わる数値に若干ながらの低下が見られました。助けられた子どもは「自立」する機会を逸し、助けた子供も、助けられたい子供の成功体験を見ることができず、徒労感だけが残ったのではないかと推測されます。やはり、主観にばかり頼るのではなく、ねらいと手立て、そして客観的な検証が必要だ

と実感しました。さらなる改善の余地があることが分かりましたが、キャンプ活動中の子供たちは、本当に生き生きとしており、記述式アンケートからは、達成感と満足感を感じることができました。

## 小中九年間を通じた 特色ある宿泊体験活動 〔知夫村〕

知夫村では、昨年度県内二校目となる小中一貫校を開校しました。小中九年間の一貫教育に併せて、社会教育の分野で実施しているのが「九年間を通じた系統的、発展的な宿泊体験活動」です。〔左図〕

「知夫里高等学校構想」に基づく特色ある宿泊体験活動 (知夫村)	
自立・協力・感謝	
中1	ふるまい向上合宿(5泊) ねらい: 自立を目指した生活体験 ねらい: キャリア教育 ねらい: 協働的な合宿生活
小5	島前町で泊まろう(3泊) ねらい: 島外で泊 ねらい: 民泊(税、感謝、ふれあい) ねらい: 村でできない事前体験
小1	初めてのキャンプ(1泊) ねらい: 自宅外で泊 ねらい: スタッフや友達と協力 ねらい: 身近な野外での体験

発達段階に応じて①小一～四年生によるキャンプ(一泊)、②小五・六年生による民泊交流(三泊)、③中学生

による合宿生活(五泊)という三つのステップがあります。九年間を通して子供たちの「生きる力」と「豊かな心」を育めるよう、泊数や活動内容を徐々にステップアップさせているのが大きな特徴です。

また、村内外の多様な関係者との濃密な信頼関係・協力体制のもと、ねらいや対象学年にあった計画を共に作り、協働しています。関係者や保護者からは、以下のような高い評価と期待の声があります。

- ・四年生のリーダーシップが素晴らしく伸びた。
- ・体験活動の質が高い。
- ・各学年の子供にピッタリ合っている。
- ・今後、もし他の事業を削ったとしてもこの宿泊体験活動だけは残してほしい。

今後も学校・家庭・地域の一層の連携・協働を図り、「自立・協力・感謝」を目指した本活動を推進していきたいと考えています。

(文責 横田)